

1 学年だより

令和3年 9月24日(金)

夢の宅配便

1 年学年主任

水野 喜代治

毎週土曜日に華道部（保護者ボランティア）が活動しています。

お母さんたちが創る秋の文化的な空間

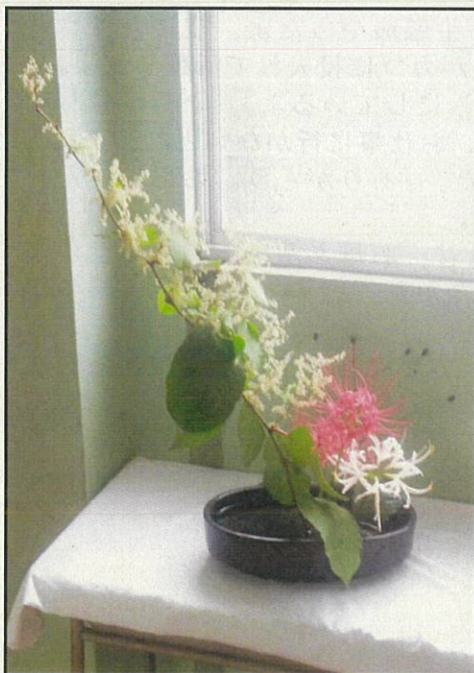


毎週土曜日の11時から保護者の方と1年生の廊下に生花をして楽しんでいます。現在、4人のお母さんと小学生1人の5人で活動しています。

真夏は、校庭で花を探すのが大変でしたが、9月から学校が始まると、生徒の登校を待っていたかのように、彼岸花、黄花秋桜、ススキなどが咲いて華やかになりました。夏休みが終わって、コロナ禍を緊張した表情で登校する生徒を、お母さん方の生けた花が優しく迎えてくれました。意識して生花を見る生徒は少ないと思いますが、無意識のうちに生徒の心の中に、花の美しさが広がっていくはずです。

3枚の花の写真は先週廊下に置かれた生花です。左上は、「水乃流秋桜」さんの作品です。お月見を意識してススキを生けてくれました。右上は、お母さんと一緒に参加して、可愛くお花を生けてくれる。小学生の「水乃流朝顔」さんの作品です。毎週、新しい生花を見ながら勉強できる環境は、ちょっと贅沢で素敵だなと思います。

基本、お花は、校庭のお花を生けています。花屋で購入してきた場合は、ボランティア活動費の方からお金が出ます。土曜日の11時にご協力できる保護者の方がいましたら一緒にお花を生けましょう。お待ちしております。生徒の心をお花で包んであげたいので…。



連載小説「きっかけ」

第4話…お弁当が来た！

青柳先生の足取りが早いので、私は、一生懸命に先生の後を遅れないように付いていった。呼び出された時に、先生の足取りが早い時は、先生の怒りが高まっていることが多い。これは、小学校入学以来、ありとあらゆる指導を受けてきた私が見出した法則である。怒りに満ちた先生が、1秒でも早く指導したいという心の表れが足取りの速度を高めるのである。私が、速歩きをしなければ青柳先生についていけないこの状況は、もはや緊急事態である。私は頭の中で、この呼出は何か、必死に考えだした。3日前のアイスを食べながら下校したことがバレたのか？あれは、通学路の途中にある駄菓子屋のおばあさんが一生懸命に店先を掃除していたので、手伝ったらご褒美にアイスをくれたのを食べただけで、買い食いではない。それとも、5日前のトイレのガラスを割ったのがバレたのか？あれは、踵を踏み潰し、スリッパのようになった上履きを履いていたので、ウルトラマンキックの真似をしたら上履きが飛んで男子便所のガラスを直撃して割ってしまった。いたずらで割ってやろうとしたのではなく、完全な事故である。ただ、同じ場所の同じガラスを先々週にボールを投げ損なって割ったので、言いにくくて黙っていたのだ。きっとこの件だ、どうしよう！青柳先生の後をついて歩きながら、二度とウルトラマンキックはしないことを心に誓った。連行されていく私を女の子たちが、「きよちゃん、また何かいたずらしたの？」と笑いながら声をかけてきた。「何もしていないよ。ガラスとか絶対割っていないよ！」と思わず言い返した言葉に頬を赤らめた。友達のトンカツとブーがお母さんと一緒に楽しそうにお弁当を食べている。「きよちゃん、午後のリレー頑張ろうね！」とのんきな言葉を掛けてきた。私はブーに引きつった顔で手を振って、青柳先生の後を付いていった。

職員室に連れて行かれると思っていたが、なんと正門の入り口に青柳先生は私を連れ出した。「喜代治くん、正門に誰がいますか？」と私に優しく微笑んで問いかけた。正門を見ると、「曾我小学校秋の大運動会」と書かれた立て看板の横にお母ちゃんが立っていた。「おかあちゃん！、どうしたのおかあちゃん！何かあったの」私はお母ちゃんが学校に来たので頭が真っ白になった。「喜代治、お母ちゃん、お弁当を届けに来たんだよ。見に来れないでごめんね、」「お母ちゃん、お仕事は、お仕事は大丈夫なの？」「お昼の休憩の時間を少しもらって来たんだよ。運動会頑張ってやってるの？」と母が目を赤くして、優しく聞いてきた。「お母ちゃん、僕は、今日は、何もかも一生懸命やったよ。夜にたくさんお母ちゃんを喜ばすお話をするために、玉入れも一番、僕がカゴに投入して活躍したよ。」と全力で母にはなした。「夜、喜代治の話を聞くのを楽しみにしているよ。」と母が嬉しそうに答えた。「おかあちゃん、もう行っちゃうの？」「また、お仕事に行かないとね。これ、お弁当」と風呂敷に包まれたお弁当を母が手渡してくれた。「ありがとう。お母ちゃん」と私は、母を乗せたタクシーを見えなくなるまで見送った。

青柳先生が私の頭に手のひらをそっと乗せて、「喜代治君、お母さん来てくれてよかったね。」と頭を撫でてくれた。先生の手の手がとてまあたたく感じがした。「先生、ありがとう！」と言って、私はお弁当を大事に持って校舎の裏庭に行った。なぜか、一人でお母ちゃんのお弁当を食べたかった。裏庭の大きな庭石に座ってお弁当を広げた。風呂敷を広げて、おにぎりの包みである新聞紙を広げるとびっくりして、私は、弁当を持って、校庭の青柳先生のところに一目散に走り出した。 つづく